令和６年度第２回浜松市美術館協議会会議録

１　開催日時　　令和７年１月８日（水）
　　13 時 55 分～15 時 00 分

２　開催場所　　浜松市美術館２階　応接室

３　出席状況

会　　長	内　田	いず美
委　　員	磯　部	啓　次
委　　員	石　上	充　代
委　　員	伊　藤	公　子
委　　員	今　田	徹
委　　員	山　口	剛
（事務局職員）		
市民部文化振興担当部長	嶋　野	聡
美術館長	飯　室	仁　志
秋野不矩美術館長	鈴　木	英　司
美術館長補佐	中　村	真　康
美術館副主幹	市　川	智　久
美術館副主幹	若　澤	久　実
美術館	島　口	直　弥

４　傍聴者　　０人

５　議事内容　　（１）令和５年度浜松市美術館等外部評価について
　　（２）意見交換
　　（３）その他

６　会議録作成者　若澤　久実

７　記録の方法　　審議事項について発言者の要点記録
　　録音有

８　会議の記録

（中村館長補佐）令和６年度第２回浜松市美術館協議会を開催する。

協議会開催にあたり、荒川委員、筧委員が所用により欠席となるが、浜松市美術館協議会要綱第５条に基づく委員過半数以上の出席となったため、本会議開催要件を満たしたことを報告する。傍聴の申し込みは０人である。本日の会議録署名人は、内田会長にお願いする。

それでは、次第に沿って、内田会長からあいさつをお願いする。

（内田会長）寒い日が続き、感染症も流行しているので皆様お身体を労わっていただきたい。本日は有意義な会議となるよう務めさせていただく。

（中村館長補佐）次に、嶋野担当部長からあいさつする。

（嶋野担当部長）昨年は年初から災害があり慌ただしい一年だったが、今年は穏やかなスタートとなった。外部評価によりいただいた意見を基に、より良い美術館運営を図っていきたい。秋野不矩美術館は、議会承認を得て、令和７年度から５年間公益財団法人文化振興財団に指定管理を依頼することとなったことを報告する。

（中村館長補佐）続いて、飯室館長からあいさつする。

（飯室館長）コロナ禍以降、美術館等の文化施設に求められることが少し変わってきたと感じている。生涯学習施設として、あるべき姿を考えながら展覧会等を企画していく必要がある。本日は忌憚のないご意見をいただきたい。

（中村館長補佐）それでは、議題に入る。ここからの進行は、内田会長にお願いする。

（内田会長）最初に、（１）令和５年度浜松市美術館外部評価について、事務局から説明をお願いする。

（事務局）令和５年度浜松市美術館外部評価について概要を説明する。各委員の外部評価に対する事務局回答は配付資料に記しているため、詳細な点については資料をご覧いただきたい。

それでは、企画展・特別展、教育普及活動に関する外部評価と事務局回答など主なものを説明する。浜松ゆかりの作家や美術作品、地域文化財の調査研究、成果の展示について評価をいただき、今後もそうした活動を継続することが望ましいと意見をいただいた。展示と公開を通して調査研究、文化財の管理・保存をするサイクルが回るよう取り組んでいきたいと考えている。研究の過程や成果の情報発信という点でやや不十分との課題もあることから、研究紀要やSNS等を通じて積極的に周知するとともに、展示作品のその後の経過や状況など長期的な調査研究の報告ができるよう活動していきたい。

次に、展覧会の音声ガイドについて、令和５年度は北斎展、みほとけのキセキⅡで活用し概ね好評であった。委員から利用料金がやや高いとのご意見があったが、料金設定は業者で変更することは難しいが、今後、館内のWi-fi環境を整備し、ス

マートフォンやアプリなど活用した案内ができるよう検討を進める。
　続いて、教育普及活動について、ワークショップや講座、研修会等の実績を評価いただき、今後も継続を望む意見をいただいた。次世代に向けた講座等は、美術に親しむ心を育み、将来的に地域の文化人育成や文化芸術の向上を図ることにつながるため、今後も積極的に活動していきたい。また、外部機関との連携やシンポジウム開催について意見をいただいたが、これまで近隣大学との共同シンポジウムや、展覧会内容に応じた研究者と連携したシンポジウムを開催している。今後も活動に応じて外部連携を図り関係性を構築していきたいと考えている。令和６年度から始めた取組になるが、異なるテーマを設定した学芸員講座を年４回開催した。美術や文化に興味関心のある市民からのニーズに応えることができるため、今後も取組を継続していく予定である。教育普及活動についても、取組状況や成果をまとめ、研究発表や研究紀要への寄稿等により公表する機会を持ちたいと考えている。
　市展に関するご意見について、第三展示室への誘導に対する課題は、案内板設置やレイアウト図を目録に記載するなどの改善を行った。また、応募数が少ない部門は、学生や協働センター、カルチャー教室等へ広く呼びかけ周知を図っていく。第三展示室の活用については、スペースや場所の課題があり作品点数が少ない等のご意見をいただいているが、令和５年度は劉生展ということで令和６年度洋画展につがなる布石となるような展示を行った。開催中または今後の展覧会において効果的な展示を企画したいと考えている。
　そのほか、カフェや休憩スペース設置については、委員の皆様や来館者アンケートからも多く意見や要望をいただいている。カフェ事業者に検討してもらったが、美術館は閉館時期もあることから、継続して十分な集客が望めない状況にあり、出店は困難な状況である。来館者が観覧の合間に休憩することができるようロビーに休息スペースを設けたり、楽しんでいただくためのイベントやフォトコーナーを企画したり、様々な角度からよりよい利用について検討していきたい。
　来館者アンケートによれば、SNS やホームページを見て美術館に足を運んだ方が、北斎展やみほとけのキセキⅡでは約 20%、新・山本二三展では約 15%であった。友人知人からの紹介・口コミという方も約 20%であり、SNS 等による広がりが感じられる。若い世代が親しみやすい表現や発信を心がけて広報活動を展開していきたいと考えている。

（内田会長）秋野不矩美術館外部評価について、事務局から説明をお願いする。

（事務局）秋野不矩美術館に関する外部評価と事務局回答など主なものを説明する。所蔵品展は、共通して「不矩の創造の源とは」という大きな問いを掲げそれぞれテーマを設定して年５開催している。同じ作品でもテーマに合わせて違う角度から観覧できるようキャプションを毎回作り直している。特別展は、秋野不矩と交流のあった作家のほか、遺族の要望もあり若手作家に着目する展示を行っている。広

報活動について、委員からの指摘の通り特別展は入館者が所蔵品展の２倍以上となっており、積極的な広報活動の成果と考えるが、所蔵品展においても同様の集客努力が必要であると考えている。

作品の保存管理においては、日本画の温湿度管理が難しく、展示期間や作品入替など工夫をしている。傷みも進んでいるため、計画的に修繕を進めていきたい。

また、音声ガイド等の取組について、当館においても検討の必要があると感じている。外国人来館者はキャプションをスマートフォンで読み込んで翻訳しているようである。浜松市美術館の今後の取組を参考に工夫していきたい。

教育普及活動では、夏休みに子供が楽しく美術に親しむことができるワークショップを開催するほか、各展覧会会期中には、館長、学芸員、作家、研究者などによるギャラリートークや講演会を開催して好評をいただいている。小学校教員向けの図画工作実技講座では、水彩絵の具のたらしこみやにじみなどの技術や、足し算ばかりではなく、ふき取り吸い取りなどの引き算の画法指導なども行った。また、幼児教育の観点から、幼児の絵画にみる色や形、表現から子供の心理状態や家庭状況のあらわれなどについて、講演活動に取り組んだ。インターンシップや博物館実習、校外学習等も積極的に受け入れており、学生目線からみた秋野不矩美術館の魅力などを再発見している。

施設は築 27 年が経過し、劣化した箇所は建築家と調整しながら計画的に補修を行い、来館者等への安全対策と建物の風合いの両立を目指している。秋野不矩美術館も浜松市美術館同様カフェ設置要望が多いが、お互いにメリットのある取組を検討していきたいと考えている。

（内田会長）事務局からの外部評価の説明について、ご意見、ご質問はあるか。

（山口委員）きめ細やかな対応がされていると感じる。引き続き、各委員からの意見を汲みとり、様々な試みを実践していただきたい。

（磯部委員）スマートフォンを活用した広報や展示に関する検討を進めていただけるとのことで期待している。浜松市美術館も秋野不矩美術館も駐車場から坂道があり距離が長いが、その負担感を忘れさせるような取組とはどのようなものを考えているのか。

（事務局）秋野不矩美術館は建築家の藤森氏が様々な角度から楽しんでいただきたいという思いをこめて意図的に長いアプローチが設計されている。高齢の来館者も多いことから記念写真が撮れるビュースポットの設置や、モニュメントのような作品を点在させることで休憩しながら楽しんで登っていただければとアイデアを検討中である。

（山口委員）珍しい草花などの植え込みがあると良いのではないか。

（事務局）イノシシや猿、鹿などの野生動物が食べたり踏み荒らしたりしてしまうことがあり、草花を定着させるのがなかなか難しい。

（伊藤委員）秋野不矩美術館は裸足で展示室に入れるため気持ち良く過ごすことができる。清掃など維持管理が大変だと思うが、大きな魅力だと感じる。

（内田会長）秋野不矩美術館の坂道の負担について、今後、休憩場所やビュースポットを検討されるとのことだが、設置する際は坂道の下に立ち寄りポイントを知らせる案内を設置すると良いのではないか。また、近年はイングリッシュガーデンが人気を集めており、そういった整備ができれば見どころになると思うが建築との調和も考えながら検討いただきたい。

（今田委員）はじめの館長挨拶で話のあったコロナ禍が過ぎてからの変化について詳しく伺いたい。また、みほとけのキセキⅡの館外のイベントの状況について具体的に教えていただきたい。

（事務局）集客に関する変化として、前売券の売上が以前の 10 分の 1 程度まで落ち込んでいる。事前に情報を調べてチケットを購入するものではなく、評判を聞いて来場するか検討しているということなら、広報や情報発信のあり方について改めて考え直す必要がある。また、展覧会の開催に要する経費が諸々高騰しており、特に海外からの作品の輸送費が大幅に値上がりしている。経費面の課題をクリアするには、国内の作品や館蔵品の魅力を引き出したり見直したりということも考えていかなければならない。一時は、西洋画が遠ざかって日本画に注目が集まっていたが、そうした波も落ち着きつつあり、ここから何が注目されるのか客の嗜好の方向が掴み切れないが、アンテナを高く、情報収集に努めてニーズに応えられる企画を考えていきたい。

（今田委員）人が集まるから美術館を避けているというような傾向は見られないか。

（事務局）そうした点を懸念している様子は感じられない。

（事務局）みほとけのキセキⅡの館外イベントとして、みをつくし文化センター、西部協働センター、地域情報センターにおいて仏像講座やシンポジウムを開催した。みをつくし文化センターでは、展覧会半年前に講座を開催し、浜名湖北岸地域の仏像に関する内容を含めて説明をし、40 名程の集客があった。西部協働センター

では、展覧会１か月前にオフィシャルサポーターのアナウンサー久保沙里菜さんを迎えて対話形式で講座を開催した。地域情報センターのホールで開催したシンポジウムでは、成城大学の岩佐教授、奈良教育大学の山岸教授、上原美術館の田島学芸員と浜松市美術館の島口学芸員が、それぞれの研究分野から仏像を比較説明したり客席からの質問に答えたりする形で意見交換し、大変好評であった。SNS やホームページによる案内のみであったが、申込開始から４日間で 120～130 席が満席となり、全国各地から参加いただいた。

また、中学校では京都・奈良への修学旅行の事前学習として、仏像講座を行った。生徒が話し合いながら仏像の特徴ごと時代ごとに分類するなど、主体的対話的な学びにつながった。都田小学校では、学区にある寺からみほとけのキセキⅡに出陳された仏像があることから、半年間かけて教科を横断して様々な角度から学びを深め、最終的には子供たちが学習した成果を美術館でギャラリートークするなどのコラボレーションが実現した。さらに、社会科の教員研修会においても、地域の仏像について講習を行った。

（石上委員）静岡県立美術館においても、浜松市美術館・秋野不矩美術館と同様、運営に関する課題がある。カフェに関して、静岡県立美術館では企画展の際はカフェ営業していただけるが、常設展のみの期間は採算の面で休業してしまうため、継続することが難しいと感じる。建物までのアプローチが長い、という点も共通しており、県立美術館では、今年度はじめてクラウドファンディングで目標額 1,000 万円の経費を集め、彫刻プロムナードの彫刻と園地の修繕・整備を行う予定である。支援を呼びかける中で、もう一度彫刻プロムナードの魅力に気付いていただきたいというメッセージを発信した。美術館に来るまでに歩いて良かったと思ってもらえるように、様々な広報活動に取り組んでいるところである。

美術館の基本的な役割である調査研究の成果を展示で皆さんに還元し、教育普及活動で広め、さらに保存活動につなげるというサイクルをしっかり回して取り組んでいると感じた。公設美術館として地域の作家や作品、文化財を取り上げることに真摯に向き合っている部分は大変評価できる。

また、秋野作品の保全に関する部分について、作家名を冠する美術館として代表作を見たいという来館者も多く、展示期間や作品入替に関しては苦心されているかと思うが、保全をしていかなければ将来の鑑賞者に公開することができないということを説明して理解していただくほかないと考える。今後も継続して作品保全に取り組んでいただきたい。

（山口委員）県立美術館の駐車場から建物までのアプローチがとても好きなので、浜松市美術館・秋野不矩美術館も市展入賞作品等で屋外に置ける作品があれば、すぐに実現は難しいかもしれないが、長い道のりのどこかに設置することを検討していただきたい。

（内田会長）以前訪れた豊橋市美術博物館では、屋外の広場に子供たちの立体作品を展示するイベントが開催されており、子供たちが楽しそうに過ごしている姿が印象的であった。そういった大胆な取組もとても面白いと思う。

（今田委員）浜松城公園の駐車場付近に美術館のポスターを設置する場所があると良い。

（事務局）浜松城公園駐車場の付近に浜松市美術館の看板が設置されているのだが、今後は、より目立たせるように工夫していきたい。

（内田会長）そのほか、ご意見、ご質問はあるか。

質疑応答なし

（内田会長）それでは、次第の５（３）その他について事務局から説明をお願いする。

（事務局）第３回美術館協議会では、寄贈作品と次年度の計画について説明する。

（内田会長）本日の議題は以上である。

（事務局）以上をもって令和６年度第２回浜松市美術館協議会を閉会する。